千葉国際芸術祭 2025 基本計画書案（追記後）

資料１

1. 名称

千葉国際芸術祭 2025　〔英語表記：Chiba City Arts Triennale 2025〕

2. 開催目的

（1）新たな文化の創造と魅力の発信

千葉市は、浜辺や里山などの豊かな自然に囲まれ、縄文文化からの歴史を育みながら、本市の立地や交通の利便性等により、周辺地域から多くの人々が集うことにより、多様な交流が生まれるとともに、国家戦略特区制度を活用した未来技術の実証など、都市として、常に挑戦し変革しています。

本市の特性である、古来から受け継がれる豊かな自然やそこで育まれてきた歴史などの普遍的な資源と千葉都心や幕張新都心、蘇我副都心における都市の革新的な資源を、芸術祭において活用し、本市ならではの新たな文化の創造と、文化芸術と市の資源が織りなす魅力を広く発信します。

（2）地域への関心や関わりの醸成

近年、都市部の芸術祭においては、質の高い作品の鑑賞の場の提供にとどまらず、市民がアーティストと交流を重ねながら文化芸術活動に参加体験できる場も提供することで、芸術祭を通じて市民同士の新たな繋がりが生まれ、芸術祭終了後も、文化芸術活動を通して、市民がともに地域の魅力の向上や課題の解決に目を向け行動するきっかけとなっています。

本市でも芸術祭に市民が参加・体験できる機会や場を設けることで、市民同士の交流や地域への関わりが生まれるきっかけを生み、文化芸術活動を通して市民と地域の新たな関係を醸成に繋げていきます。

（3）多様な主体の尊重と繋がりの創出

文化芸術基本法では，年齢、障害の有無、経済的な状況又は居住する地域にかかわらず等しく文化芸術の機会を享受することが基本理念としてうたわれており、また、文化芸術は、人々が文化芸術の場に参加する機会を通じて、多様な価値観を尊重し他者との相互理解が進むという社会包摂の機能を有しています。

市内の様々な場所や地域をフィールドに、アーティストが芸術祭で様々な価値観や視点を広く投げかけることで、年齢や性別、障害や国籍の有無に関わらず、多様な主体が文化芸術の鑑賞・体験を通して、様々な価値観を認めあい、互いへの理解や繋がりを深めていくきっかけとしていきます。

3. テーマ

ひらく　街とこころ

4. コンセプト

千葉市の街に内在する自然・文化・人材・歴史などの地域因子を持続的な地域文化や芸術的な価値に高めるべく、市内にアーツフィールド(創造的活動の場)を発掘し、多彩なプロジェクトを実施して、クリエイティブ・プロセスの循環を巻き起こします。

市民自らが地域の魅力を発見し自分ごととして未来のビジョンを描くこと。

そしてそのビジョンを具現化する多様なアクションを起こし続けるコミュニティを生み出すこと。

そしてそのコミュニティの創造的活動を地域住民・専門家・行政の協働で持続性ある活動としてケアしていくことが重要だと考えています。

アートはすべてをつなげる逸脱の創造プロセスです。アートで市民活動をアクティブにしながら、市民参加型芸術祭とすることで、本芸術祭が持続的な地域文化の創造の礎となり、『人づくり』『まちづくり』『未来づくり』に寄与することを目指します。

『人づくり』

どんな世代、立場の人に対しても、その人の心がひらき新たな発見や気づきが起こる瞬間に「意識変容」が生まれます。その気づきを生み出す場をいかにつくり出せるかが重要です。

気づきを得る瞬間は、日常と異なる風景だったり、友人に誘われてたまたま訪れたアートのワークショップだったり、人によって様々なきっかけがあるでしょう。

本芸術祭では、千葉市内のアーツフィールドで多様な価値観に触れる機会を創出し、市民それぞれの気づきのスイッチが入る瞬間をつくり出し、新しいことにチャレンジする市民プレイヤーを多く生みだしていきます。

『まちづくり』

気づきの瞬間が訪れ、意識が変わった市民の心に発芽した創造性は、新たなコミュニティ形成や地域の課題解決に取りかかるなどの「行動変容」にも繋がります。

本芸術祭で実施される様々なプロジェクトを体感し参加する事で市民の経験値も高まり、それぞれの立場でまちを創造的にする行動力が活性化されていくことでしょう。

アーティストの創造力と、彼らが行うプロジェクトが市民の行動の変化を牽引し、ひいてはその変化のプロセスがまちづくりの原動力となっていきます。

『未来づくり』

市民の創造力が高まり、まちの創造力とシンクロする時、地域社会全体に影響を与える「社会変容」が起こります。

それは「アート×コミュニティ×産業」という新たな関係構築や創造都市の基盤形成を促し、地域社会において市民活動や企業活動、国際交流活動など多様な活動そのものに新たなエネルギーを与えていきます。

未来の千葉市を創造する多くの市民プレーヤー自らが千葉市のエリアケイパビリティ※1を高めていくのです。

※１エリアケイパビリティとは人々が地域の環境的豊かさを能動的・主体的に高め、その環境が有する資源を用いて地域が質的に豊かになる能力のことです。

5. 会期（予定）

[プレ会期１]　令和５年１２月～令和６年３月

[プレ会期２]　令和６年１０月～令和７年３月

[本　会　期]　令和７年４月～令和７年１２月

（コア期間：　同年９月下旬～１１月中旬（案））

※詳細は、実施計画策定時に決定

６．事業展開

地域ごとの魅力ある資源を活かし、アーティストと市民が共に楽しみながら創り上げていく芸術祭を目指し、多様な文化芸術活動の場や機会を創出します。

また、多くの方が作品や活動に気軽に触れることができるよう、市内の様々な場所を活用するとともに、学校や民間企業等と連携を図っていきます。

あわせて、文化芸術によるまちづくりや文化振興を担う人材育成も実践していきます。

(1) アートプロジェクト

一流・新進気鋭のアーティストが地域との繋がりを深めながら、自然や歴史などの資源等の魅力を住民とともに捉えなおし、それを体現する作品等を制作します。多くの方に鑑賞してもらえるよう、市内各所で展開します。

[参考プロジェクト]
「Slow Art Collective Tokyo」制作風景　「東京ビエンナーレ 2023 はじまり展」、東京サンケイビル、2022 年 より

(2) 文化芸術とまちづくりプロジェクト

①地域資源開発プロジェクト

これまで活用されていなかった身近な場所を、市民が文化芸術活動にふれあい、活動に取り組める場としていけるよう、アーティストの目線で市内各所の潜在的な魅力を有する場を掘り起こし、芸術祭の会場として活用します。

[参考]「アーツ千代田 3331」東京都千代田区、2010-2023 年
※閉校した中学校をリノベーションしたアートセンター

[参考]「優美堂再生プロジェクト」東京都千代田区、2020 年～
※閉店した額屋をボランティアとともに再生するアートプロジェクト

②地域資源展開プロジェクト

市内各所を回遊してもらえるよう、文化施設等に限らず、民間施設やまちなかなど様々な場所を芸術祭の会場に活用します。また、千葉市美術館の所蔵作品のデジタルアーカイブ等を活用した取組を地域で展開し、市内外に誇る美術館がある街として広く発信します。

(3) 人材育成プロジェクト

①芸術教育アートプロジェクト

市内の学生に、芸術祭ならではの芸術教育の時間を設け、文化芸術が持つ多様な表現の力を理解し、将来千葉市の文化芸術活動に興味を持つ人材の育成に繋げます。

[参考] ワークショップ「わたしの家は、どんな家？」より
※アーティスト村上慧によるワークショップ

[参考] 「3331 夏のこども芸術学校」より

②スクーリングプロジェクト

多様なジャンルのアーティストや専門家から文化芸術が持つ魅力や可能性を学びます。また、地域の課題解決に文化芸術をどのように活かしていくことができるのかを共に考え、実践に繋げます。

[参考] スクーリングの様子

③ 次世代アーティスト育成プロジェクト

芸術祭が、将来を期待されるアーティストが市内で継続して文化芸術活動を展開していくきっかけとなるよう、芸術祭内で様々な場や機会を提供していきます。

(4) 企業連携プロジェクト

市内を拠点とする企業等との連携により、企業の持つ技術や知財、社会貢献活動を文化芸術と結び、芸術祭の裾野を広げ、まちに新たな活力を生み出します。

[参考] ワークショップ「木にふれて森の声を聞こう！」より
※企業が取り組む環境保全への貢献活動の一貫で、森林整備時に出た間伐材を用いたワークショップを企画実施。

7．会場

(1) 中央区

都市機能が多層化している市の中心地域。都市機能が多層化していることで視点を変えると様々な魅力が蓄積されています。多くの人が行き交う地域でもあるため、千葉市美術館をはじめ既存の文化施設を活用するなど、アートの展示エリアとして集客も期待できます。

プロジェクト展開候補地：そごう千葉店等※2

(2) 花見川区

区を横断する「花見川」や、戦後の日本経済復興を契機に、花見川団地をはじめとした大規模住宅「団地」に着目し、アートやクリエイティブとの接点を探る試みを検討しています。市民参加型のプロジェクトや、これまで気づかなかったアートの展示場所が見つかる可能性を秘めています。

プロジェクト展開候補地：花見川団地等※2

(3) 稲毛区

区内に立地するする大学との連携や、埋め立てによる現在の景観が生まれる以前の文人墨客も訪れる保養地時代を想起させる歴史的建造物を会場として使用するなど、文教地区らしいプロジェクトが生まれる可能性があります。

プロジェクト展開候補地：千葉市民ギャラリー・いなげ等※2

（4）若葉区

動物園や加曽利貝塚、また観光農園などの観光スポットでは、その場所の機能によって固定化されたイメージが先行してしまいがちですが、これらの場所がアートと出会うことで、今まで気がつかなかった新しい風景が見えるかもしれません。場の力を変容させるプロジェクトを実施できる可能性に満ちています。

プロジェクト展開候補地：千葉市動物公園等※2

（5）緑区

「昭和の森」をはじめとした多くの自然に恵まれながらも、大型の区画整理によるまちづくりが実施されたことなどにより、同区に新しく移り住んできた方々が多くいることが想像されます。プロジェクトによって新しいコミュニティが生まれる可能性を秘めています。

プロジェクト展開候補地：昭和の森等※2

（6）美浜区

千葉市の中でも東京にアクセス至便であり、区の全域が埋め立てにより造成された機能的に美しく作られた都市景観を持っています。国際的な企業や研究開発機関が集中する街だからこそ、アートとコミュニティと産業を繋げるプロジェクトや、現代美術の先鋭的な作品展示にも親和性の高い街とも言えるでしょう。勢いのある街の力をクリエイティブの力に変える可能性を持っています。

プロジェクト展開候補地：旧高洲第二中学校等※2

6区全体への展開として、各区アフタースクールでのスクーリング事業の展開を想定。

※２（1）～（6）の会場については、プログラムの展開先として使用可能か調整を行う。
また、引き続きリサーチを行い、新たな会場として活用できる場所を発掘する。

８．主催

千葉国際芸術祭 実行委員会

（構成団体：千葉市、千葉商工会議所、千葉市文化連盟、公益財団法人
千葉市文化振興財団、公益財団法人千葉市教育振興財団、
千葉市美術館、公益社団法人千葉市観光協会、
千葉テレビ放送株式会社、株式会社千葉日報社、
日本放送協会千葉放送局、千葉都市モノレール株式会社、
国立大学法人千葉大学、株式会社千葉銀行）

９．総合ディレクター

総合ディレクター

中村 政人（なかむら まさと：アーティスト／東京藝術大学教授）